

令和6年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番 号	19	学 校 名	奈良北高等学校
-----	----	-------	---------

1. 事業内容について

取組・活動・事業名等	おうちDEサイエンス2024
教育課程上の位置付け・目標又は活動のねらい	数理情報科1年生「SS探究基礎A」・2年生「SS探究AI」数理情報科の探究活動の成果を地域や地元の小学生に発信することにより、社会に対する視野を広げ、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力及び人間性の涵養につなげる。
連携・協働相手	近隣地域自治会、生駒市内小学校生駒市教育委員会 健一自然農園
地域と共有している目標・課題等	本校は、けいはんな学研都市にほど近く、サイエンスを身近に感じることができる地域にある。数理情報科を有する県立高校として、特徴を生かした地域交流を進めていく。
取組・活動の内容（生徒の主体性、具体的活動、連携・協働内容など）	
「おうちDEサイエンス2024」は、小学生が保護者と家庭で手軽にできる実験や観察についてのコンテンツを作成し、Webサイトや冊子で生駒市内小学生等に提供する取組である。7月には生駒市内の小学生を学校に招待し、本校生と一緒に実験を行う実験会を開催した。10月には本校の地域交流イベントの一環として「ちいきDEサイエンス」を開催し、本校近隣の小学生等を対象に実験会を実施した。また、公開講座「サイエンスカフェ」を実施し、本校SSH委員が自身の関心をもっているテーマ等について自作の資料やスライドを用いて説明し、参加者からの質問に答えた。この講座により地域の方と本校生、教員が交流を深めた。この準備を目的に7月に夏期特別講座を実施した。	

2. 事業の成果と課題

小学生を招待した実験会を令和6年度は2回実施できた。行った実験は「恐竜の卵を作ろう!」「バスボムを作ろう!」等6つのコンテンツで、小学生に科学の不思議や面白さを伝え、共に楽しみ充実した時間を過ごした。小学生にわかりやすく説明しようと試行錯誤している姿が印象的であった。小学生への対応は回を重ねる毎に向上していた。また、今年度の「サイエンスカフェ」では生徒から地域の方々に自然科学の話題や本校の取組を発信することができた。今後も地域との協働活動を教育活動の場面に拡げていくことが課題である。

【生徒の感想】地域の方に話をするのは大変緊張しましたが、真剣に聴いていただきとても嬉しかったです。良い経験ができました。

